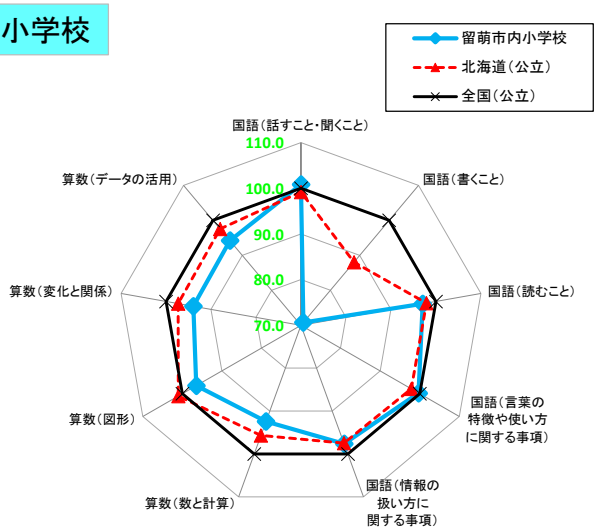
■留萌市内の状況及び学力向上策　（小学校数：5校 、児童数：122人）（中学校数：2校 、生徒数：108人）

【教科全体の状況】

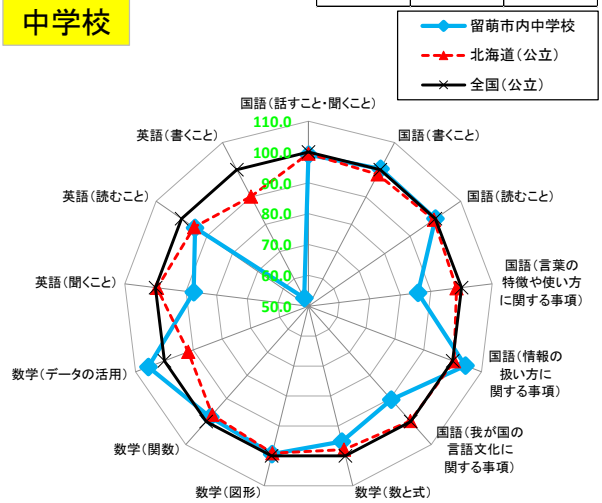
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	67
算数・数学	59	50
英語	―	39

小学校

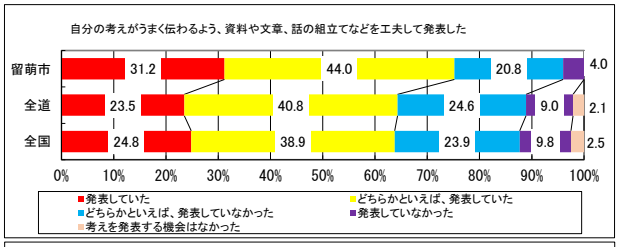


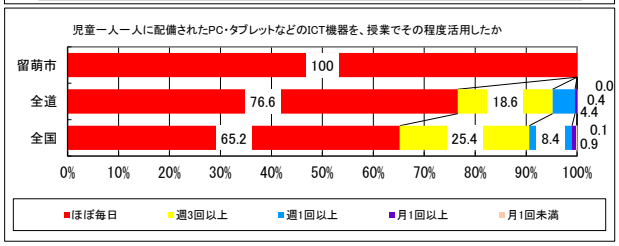
中学校



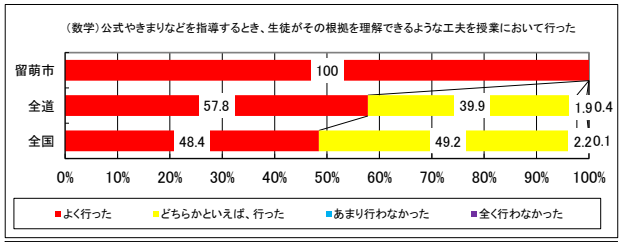
【質問紙の状況】

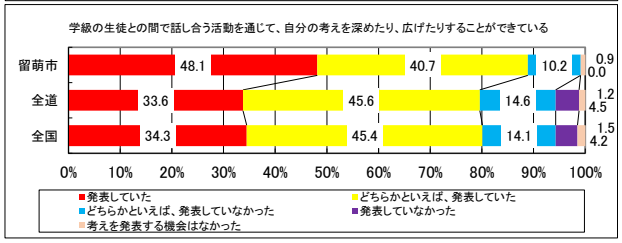
小学校





中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
各授業での発表の機会において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫させたことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるような工夫を行ったことにより、数学の「データ活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
児童一人一人の配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、授業改善が図られ、国語の「情報の扱い方に関する事項」で全国の平均正答率に近くなったと考えられる。	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしたことで、国語における思考力、判断力、表現力等の育成につながり、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で全国の平均正答率に近づき、「書くこと」の領域と「情報の扱い方に関する事項」で、全国を上回ったと考えられる。

【留萌市の学力向上策】

◎　各調査結果を踏まえた組織的な検証改善サイクルの充実による授業改善の推進
◎　ICT機器を活用した個別最適化された学びの実現
◎　各教科の系統性を踏まえた、学校間の連携・接続の推進による義務教育9年間を見通した学びの構築

【Webページ】
（R6.1掲載予定）

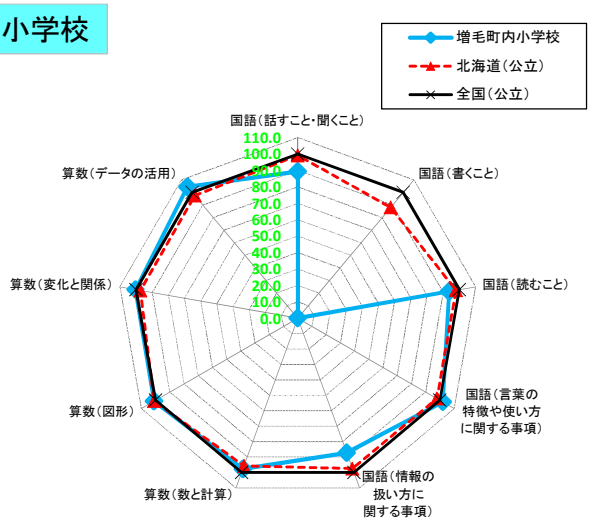
■増毛町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：19人）（中学校数：1校 、生徒数：20人）

【教科全体の状況】

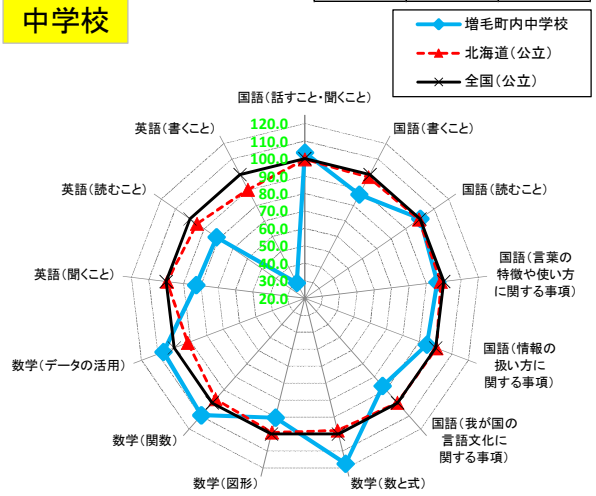
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	66
算数・数学	62	56
英語	―	34

小学校

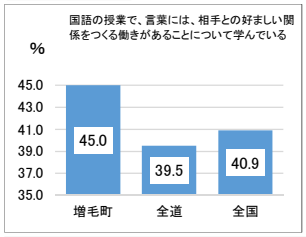


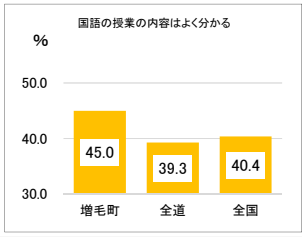
中学校

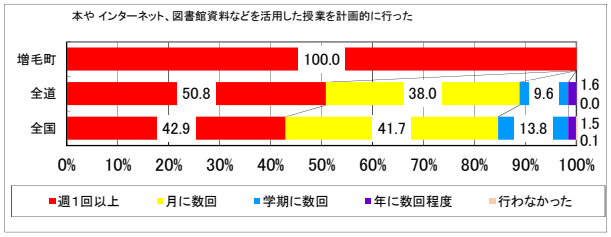


【質問紙の状況】

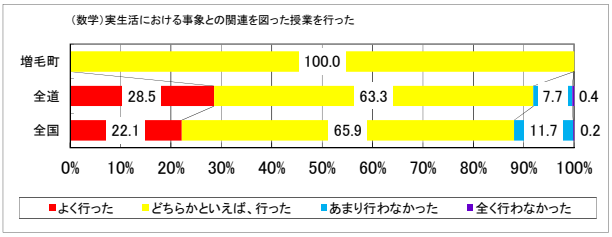
小学校

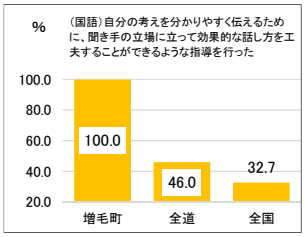


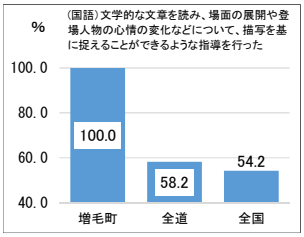




中学校







【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、言葉には相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んだことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導や文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
授業において、本やインターネット、図書館資料などを計画的に活用したことで、言葉の働きについての理解が深まり、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の「数と式」「関数」「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【増毛町の学力向上策】

◎　各種調査結果に基づいた検証改善サイクルの確立及び学習面の課題解決に向けた授業改善の推進
◎　ICTを効果的に活用した、学習への興味・関心の向上に係る取組の推進
◎　小中連携による義務教育９年間を見通した教育指導の充実

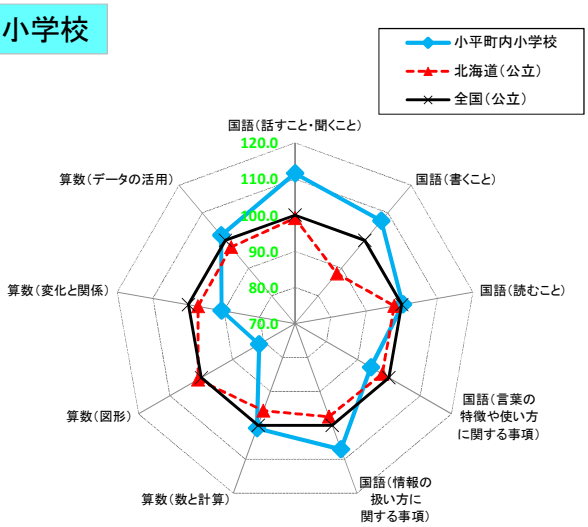
■小平町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：19人）（中学校数：1校 、生徒数：20人）

【教科全体の状況】

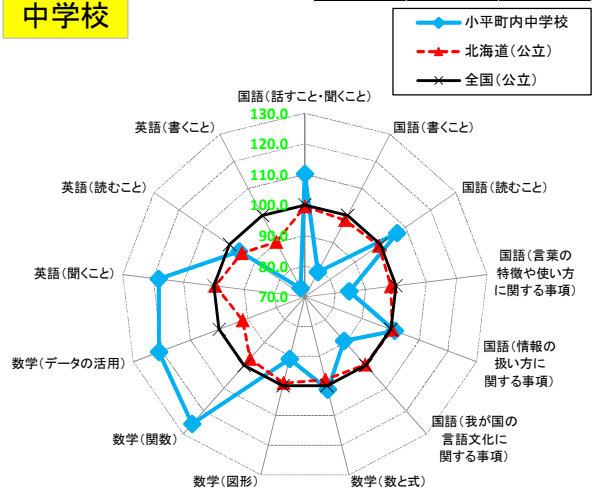
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	68
算数・数学	59	56
英語	―	47

小学校

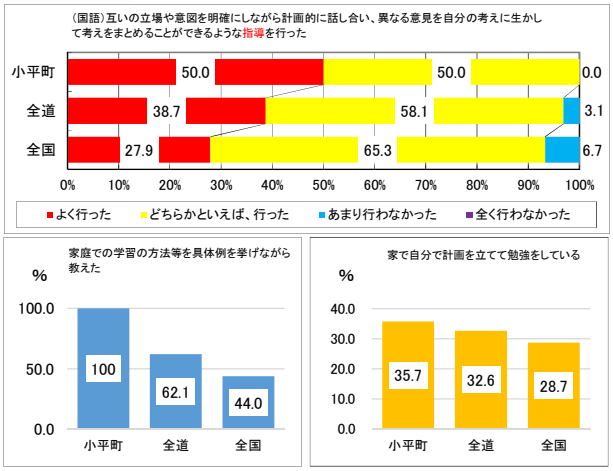


中学校

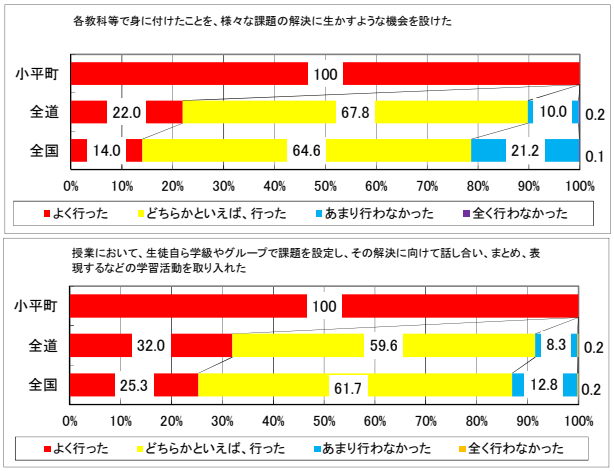


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめる活動を行ったことにより、国語の全ての領域及び「情報の扱い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」「話すこと」「情報の扱い方に関する事項」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
学校において、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を十分に設けたことにより、数学の授業の内容の理解につながり、数学の「数と式」「関数」「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【小平町の学力向上策】

◎　発達の段階に応じた児童生徒の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
◎　ALTを有効活用し、英語の習得のみならず他国の文化や考え方を理解する取組の充実
◎　情報モラルを含めた情報活用能力の向上やプログラミング的思考の育成を図る取組の推進

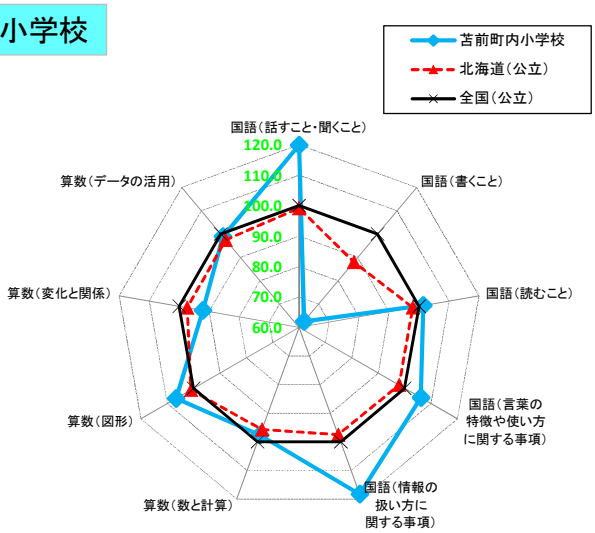
■苫前町内の状況及び学力向上策　（小学校数:2校 、児童数:18人）（中学校数:1校 、生徒数:15人）

【教科全体の状況】

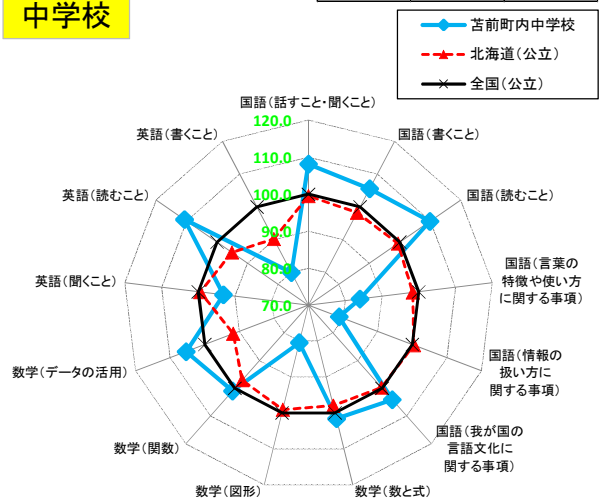
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	73	70
算数・数学	61	51
英語	―	45

小学校

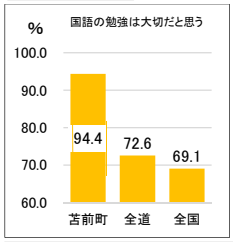


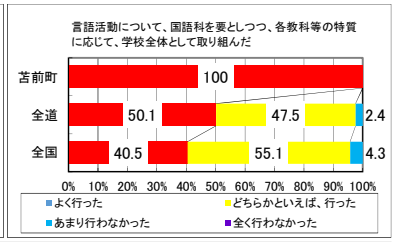
中学校

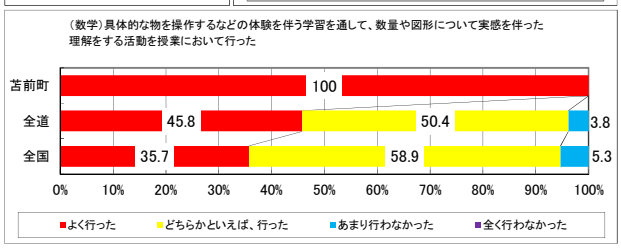


【質問紙の状況】

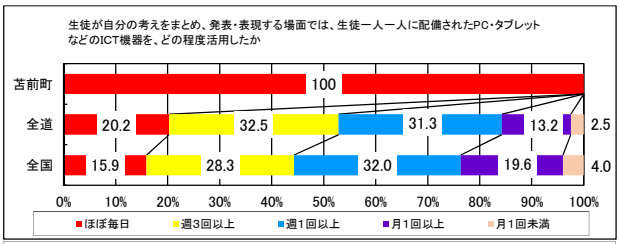
小学校

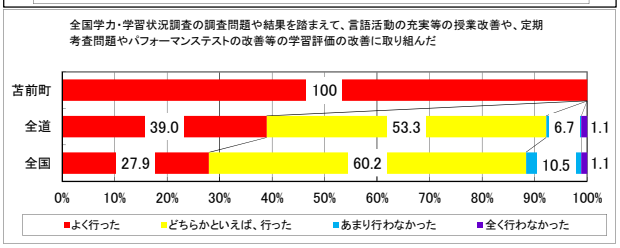






中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、2領域2事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を十分に活用したことにより、国語の3領域1事項と数学の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う活動を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	全国学力・学習状況調査の調査問題や結果を踏まえて、言語活動の充実等の授業改善や、定期考査問題やパフォーマンステストの改善等の学習評価の改善に取り組んだことにより、英語の「読むこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【苫前町の学力向上策】

◎　全国学力・学習状況調査結果の系統的な分析・検証による授業改善の推進
◎　小学校における専科指導や複数体制による指導など、個に応じたきめ細かな指導の充実
◎　1人1台端末の活用による教科横断的な視点からの情報活用能力の育成を図る取組の推進

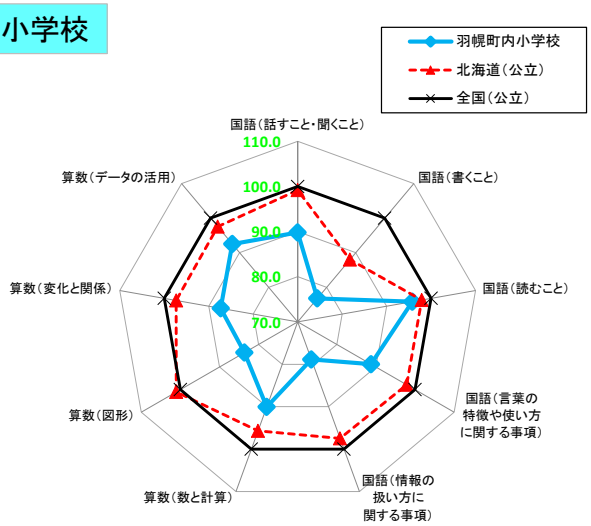
■羽幌町内の状況及び学力向上策　（小学校数：3校 、児童数：44人）（中学校数：2校 、生徒数：43人）

【教科全体の状況】

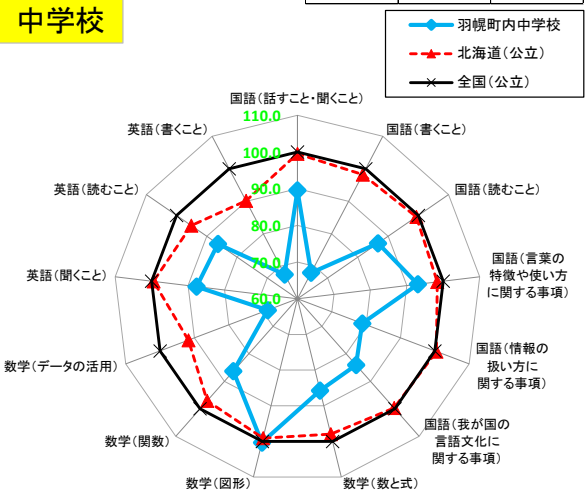
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	59
算数・数学	55	43
英語	―	38

小学校

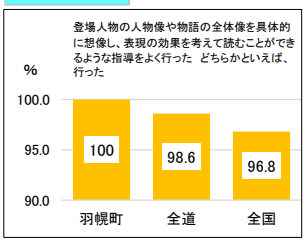


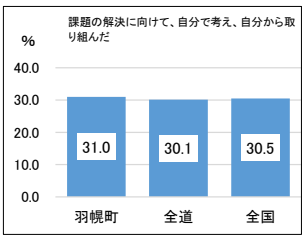
中学校

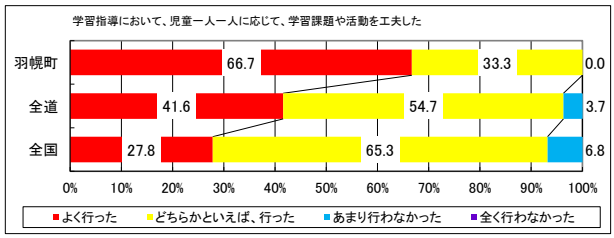


【質問紙の状況】

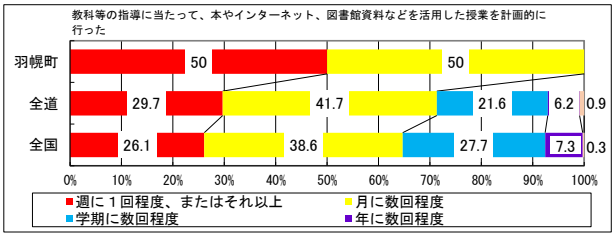
小学校

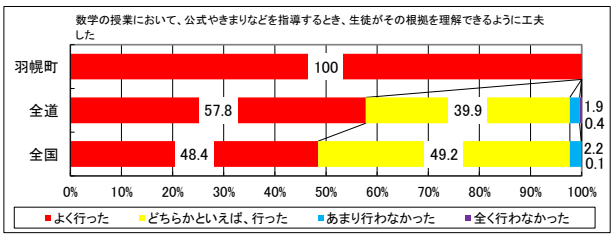






中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行ったことにより、国語の「読むこと」の領域で全国の平均正答率に最も近づいたと考えられる。	教科等の指導に当たって、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率に近づいたと考えられる。
学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【羽幌町の学力向上策】

◎　児童生徒の発達の段階や能力・適性等に応じたきめ細やかな対応と指導体制の充実
◎　一人一台端末の活用により、児童生徒の資質・能力が一層育成される教育活動の推進
◎　外国人とのコミュニケーション能力の向上や他国の文化への理解の促進を図る取組の推進

【Webページ】
（後日掲載予定）

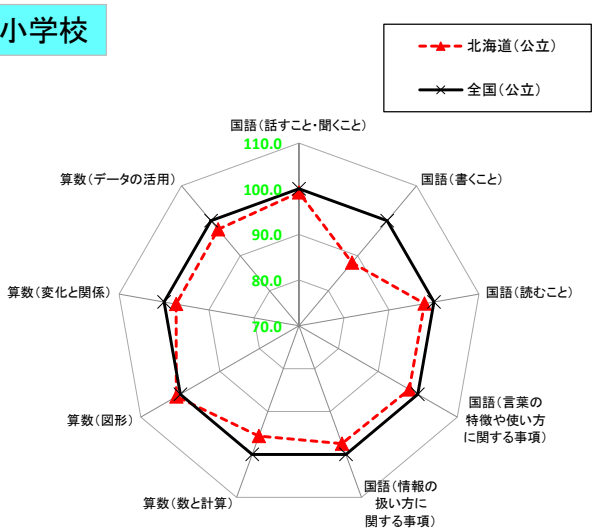
■初山別村内の状況及び学力向上策　（小学校数:1校 、児童数:7人）（中学校数:1校 、生徒数:3人）

※児童生徒数が少なく、個人の結果が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科のデータは掲載していない。

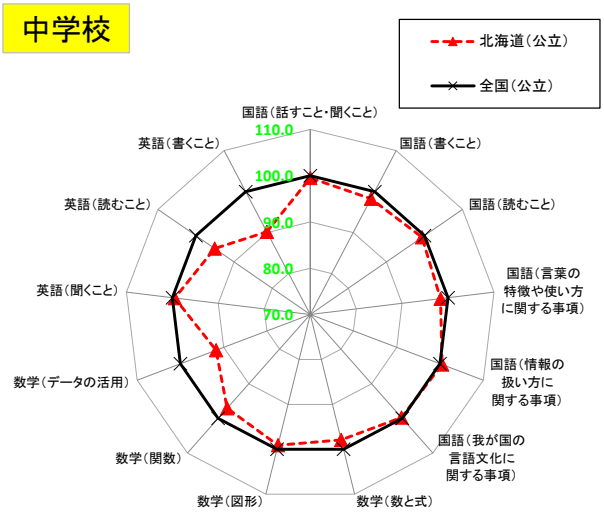
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

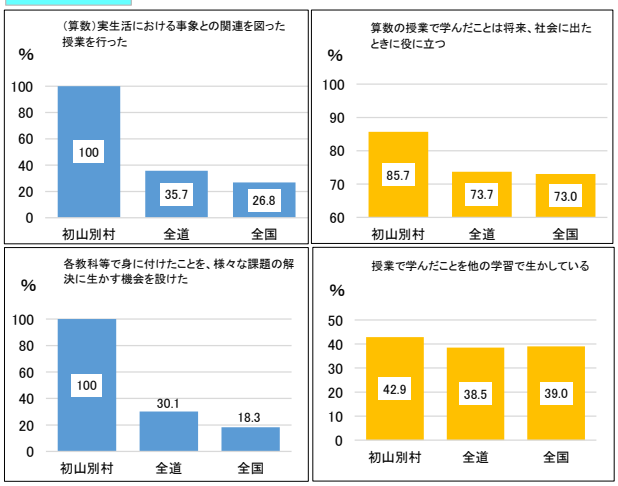


中学校

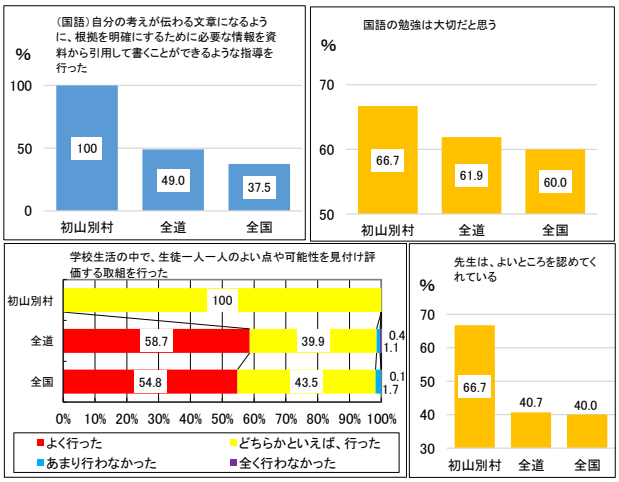


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学んだことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かす機会を設けたことにより、授業で学んだことを他の学習で生かしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【初山別村の学力向上策】

◎ 「初山別村学力向上連携協議会」における各種調査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立
◎ ICTを活用した授業改善など実践力の向上による児童生徒の教育環境の充実
◎ 「初山別村スクエアプロジェクト」を基本とした9年間の学びの連続性を意識した教育活動の推進

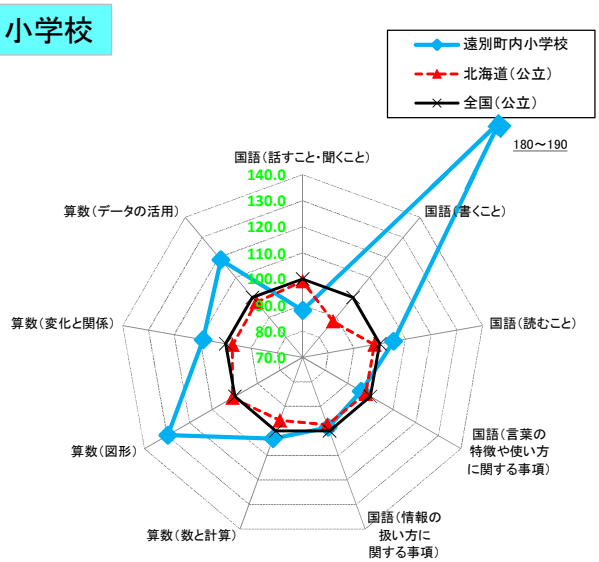
■遠別町内の状況及び学力向上策　（小学校数:1校 、児童数:12人）（中学校数:1校 、生徒数:9人）

【教科全体の状況】

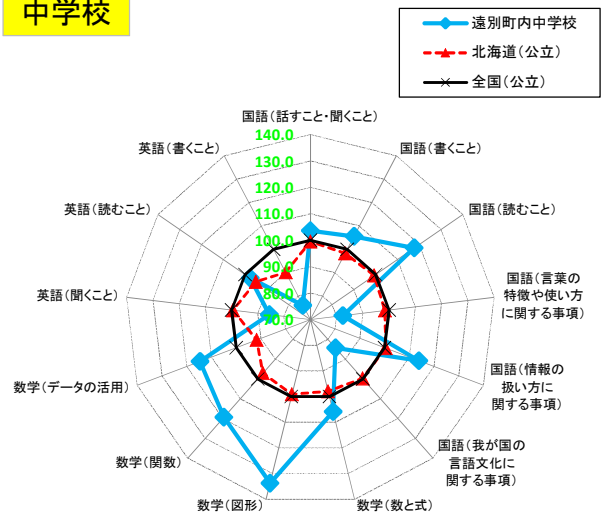
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	72
算数・数学	69	59
英語	―	41

小学校

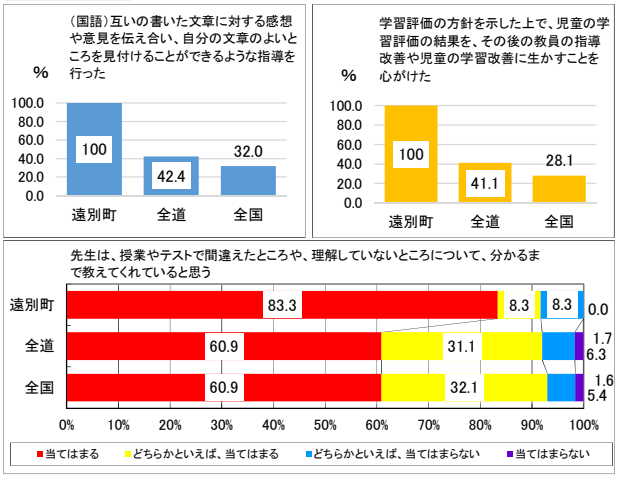


中学校

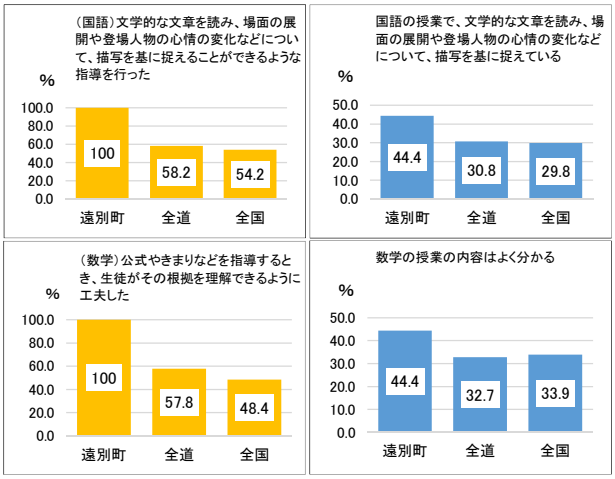


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、国語の「書くこと」「読むこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて描写を基に捉えることができるような指導を行ったことにより、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回り、国語の「読むこと」の領域において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけたことにより、先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫をしたことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回り、数学の全ての領域で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【遠別町の学力向上策】

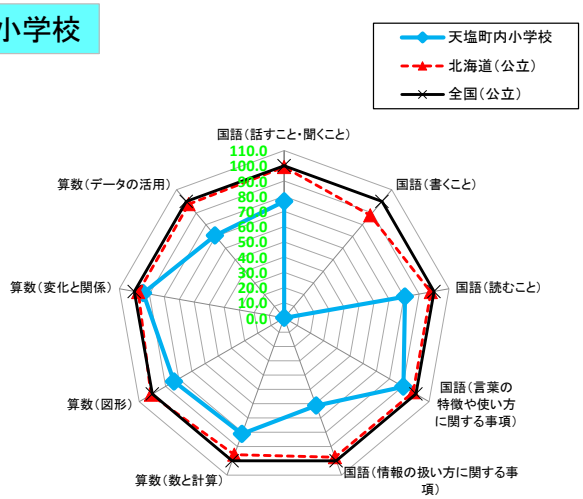
◎　ティーム・ティーチングや習熟度別授業など、個に応じたきめ細やかな学習指導の充実
◎　異校種交流や地域の外部講師による授業など、地域の教育資源を有効に活用した学習支援の充実
◎　1人1台端末の活用による児童生徒が楽しみながら効率的な学習を進めることができる学習環境の構築

■天塩町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：18人）（中学校数：1校 、生徒数：27人）

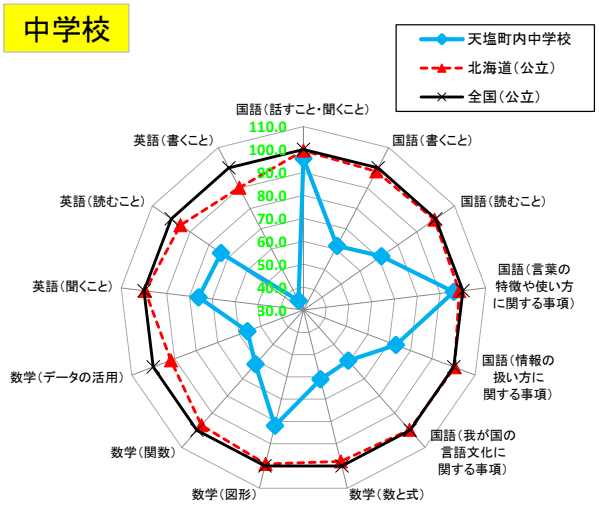
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

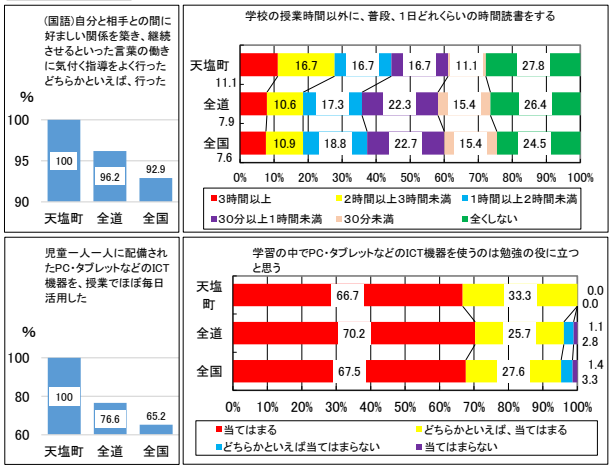


中学校

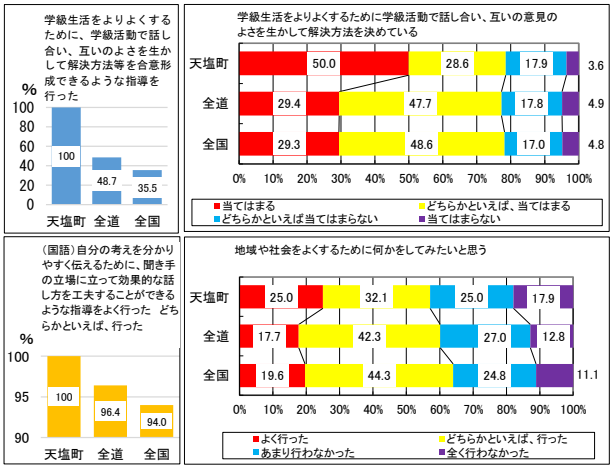


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、言葉の働きに気付くことができるよう指導したり、読書の機会や時間を多く設定したりしたことにより、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率に最も近づいたと考えられる。	国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近づいたと考えられる。
児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	学級活動において、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行ったことにより、学校生活をよりよくするために学級活動で、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
	地域素材を生かした教育活動を展開したことにより、情報活用力や発信力が高まり、地域をよりよくするために何かをしてみたいと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【天塩町の学力向上策】

◎　全国学力・学習状況調査結果の分析に基づいた検証改善サイクルの確立
◎　外部講師による授業支援及び長期休業期間における「学習サポート事業」の実施
◎　ICT端末を活用したドリルの活用、ALTの活用による英語グローバル教育の充実